

編集後記

○近年、考古学の分野では、歴史時代の遺跡の調査・研究がすすみ、めざましい成果をあげている。県下でも、ここ数年各地で歴史時代遺跡の本格的な調査が行われ、大きな成果をあげている。これらのうち注目すべきものいくつかについて、調査担当者の研究・報告をお願いし、「歴史考古学特集」とした。

○大分市古国府周辺、臼杵石仏周辺、宇佐神宮周辺等は、それぞれ古代・中世史の研究上、又、美術史の分野等にもかかわって、多くの問題をもつ所である。これらの地域に考古学の方法で切りこんだ成果。それぞれ小稿ながら、その成果の一端は十分に書きこまれているはずである。

○本誌編集中でも、大分市宮苑字千代丸の地で中世建物群が調査されるなど、歴史考古学の新しい発見が相ついだ。それほど遠くないうちに、この特集を再度とりあげる必要を感じる、そういう昨今である。

(後藤)

昭和六十年三月二十五日 印刷
昭和六十年三月三十日 発行

大分県地方史 第二七号

編集者 後藤 宗俊

発行者 渡辺 澄夫

印刷者 中尾 寿孝

別府市中央町九一五

印刷所 日の丸印刷株式会社

(電話) ②〇三四二

発行所

〒八七〇一一 大分市旦ノ原七〇〇

大分大学教育学部国史研究室内

大分県地方史研究会

(振替・下関八一五二九四番)